

令和5年6月16日
不動産・建設経済局 地価調査課

主要都市の地価は引き続き全ての地区で上昇又は横ばいに

～令和5年第1四半期地価LOOKレポート～

主要都市の高度利用地等における地価動向※は、ウィズコロナの下で、マンション需要の堅調さに加え、店舗需要の回復が継続し、前期に引き続き、全ての地区において上昇又は横ばいとなった。住宅地では、23地区全てで上昇が継続した。

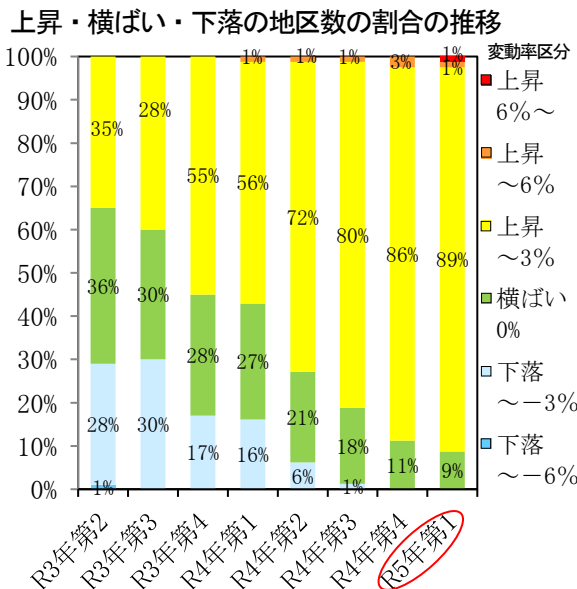
※令和5年1月1日～4月1日

◆特徴◆

- 変動率区分（上昇・横ばい・下落の区分）は、75地区で不変、4地区で上方に移行し、1地区で下方に移行した。
- 上昇地区が71地区から73地区に増加し、横ばい地区が9地区から7地区となった。下落地区は、2期連続でゼロとなった。
- 住宅地では、「3～6%の上昇」から「6%～の上昇」に移行した地区が1地区あった。「6%～の上昇」が見られたのは、令和元年第4四半期以来。
- 商業地では、「0～3%の上昇」から「3～6%の上昇」に移行した地区が1地区、「横ばい」から「0～3%の上昇」に転じた地区が2地区、「3～6%の上昇」から「0～3%の上昇」に移行した地区が1地区あった。

◆主な要因◆

- 住宅地では、マンション需要に引き続き堅調さが認められたことから、上昇が継続した。
- 商業地では、人流の回復傾向を受け、店舗需要の回復が見られたことなどから、上昇傾向が継続した。



前期からの地価動向の変化

前期	今期	地区数
「上昇」(3～6%)	「上昇」(6%～) 「上昇」(0～3%)	1
「上昇」(0～3%)	「上昇」(3～6%) 「上昇」(0～3%)	1
「横ばい」(±0%)	「上昇」(0～3%) 「横ばい」(±0%)	2
	「横ばい」(±0%)	7

四半期変動率		地区数
上昇	6%以上	1
	3%以上6%未満	1
	0%以上3%未満	71
横ばい	0%	7

※地価LOOKレポート（主要都市の高度利用地等の地価動向報告）とは、国土交通省が、主要都市の高度利用地等を対象に、四半期毎の地価動向を調査し、先行的な地価動向を明らかにするもの。調査対象は全国80地区で、内訳は以下のとおり。調査結果の詳細は、以下のHPで公開。

■調査対象内訳：東京圏35地区、大阪圏19地区、名古屋圏8地区、地方圏18地区

■ホームページ：https://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo_fr4_000045.html

＜お問い合わせ先＞

不動産・建設経済局 地価調査課 企画係長 片山（内線 30323）
（代表）03-5253-8111 （直通）03-5253-8377